

2025. 6. 2

令和 7 年笛吹市議会第 2 回定例会の告示に伴う
記者会見質疑応答（要約）

■記者

補正予算に八代総合会館改修事業あり、計画に遅れが出ているということですが、今現状どのような空調を使っていて、どう能力が足りないのか。また新しくどのようになるのかを教えてください。

■市長

既存の空調設備を更新する予定でしたが、灯油と電気を併用した複雑な作りになっていたため、施設の容量に見合った能力がないことが判明し、施設の容量に見合った能力の空調設備を整備することになりました。

■財政課長

既存のボイラーは灯油と電気を併用したような形で、このまま更新してしまうと、容量が足りないため、ここで全部を高圧電気に変えるということで、今回 8,774 万円の増額をさせていただいたところです。

■市長

建物が地下のような造りになっており、特に大ホールなどはとても暗いです。少しでも明るくなるようにと改修を進めていたところ、このようなことが判明しました。

■記者

今回は空調のみということでしょうか。

■財政課長

当初予算に全体の総合会館の改修工事として予算計上しており、今回の補正に関しましては、空調設備の追加経費という形になります。

■市長

畳の部屋をフローリングにし、テーブル席に変えたり、全部の部屋の照明を変えたり、クロスを少し変えたり、入口のところを少し綺麗にしたりと大掛かりなことではできませんが、少しお化粧直しをするという感じです。

■記者

繰り返しになりますが、空調としては大本のボイラーがあって、そこからダクトを通して各部屋に行くようなことでよろしいですか。

■市長

そのとおりです。

■記者

電気と灯油を使っていた大本を電気だけに変えるということによろしいですか。

■市長

そのとおりです。

■記者

能力が有していなかったというのはパワーが足りなかったということですか。

■市長

そのとおりです。

■記者

ふるさと納税のところで今回新しいイベントに参加するということですが、ふるさと納税の今の状況をどのように見ているか。また県内で甲府市が急激に寄附額を伸ばしていますが、その辺のところをどう見えていますか。

■市長

ふるさと納税は、今や本市にとって貴重な財源ですから、この制度に関しては地方のことを政府がよく考えていただいて決断し、実施していただいているということで本当に感謝しております。

制度に対して賛否両論はありますが、地方で非常に財源が厳しいところが、一生懸命自分たちの特産物を活かして、財源を確保していく制度を今後もぜひ続けてほしいです。

本市の今年の目標は40億円くらいを掲げており、新しく色々なことも考えていかなければなりませんが、この辺りが一つの限度かなとの思いもあります。

今、非常に果物の単価が上がり、農協へ出荷する人たちが結構増えています。

昔は単価が低く、若い人たちは自分で手売りをしていました。

現在は、非常に果物の調子が良くなってきて、市場との関係も良く、昔と比べ単価は倍に上がっており、シャインマスカットも好評なため、そういう部分で農協へ出荷する人たちが増えています。

農協へのお荷は袋詰めしなくて、コンテナで持っていけば良く、単価も高いため、そういう意味では、量を確保するのも、限界が見えてきているのかなと感じていますが、40億円近い寄附をいただき、本当に感謝しており、この先10年、20年と続いていければ良いかなと感じています。

他も頑張っているんで、本市も頑張っていかなければと思います。

■記者

シャインマスカットでいえば、長野県須坂市が他県から買ってきたものを返礼品にしていたということで、コンプライアンス自身が求められると思いますが、笛吹市としてどう考えていますか。

■市長

当然のごとく、そこは毎回毎年、生産者いわゆる販売者に対してはかなり厳しくチェックし

ています。

本市の基本的な考え方は、返礼品にクレームが来たら送り直しています。

それを条件にしています。

今納税者は、納税額に対して返礼品の量を重要視しています。

しかし、今後は品質などを重要視する高いレベルのところにいくと思われますので、本市としては、今も取り組んでいますが、品質の確保をしっかりとやらなければいけないと思っています。

■記者

補正予算のジェットシューターの購入ですが、1月の大蔵経寺山の鎮火までに時間が掛かったところと、何年か前にも大蔵経寺山で火事があったことを踏まえて、今回補正予算を計上し、これはいわゆるハード面の方だと思いますが、例えばソフト面の方で何か考えているところがあるか教えてください。

■市長

令和7年笛吹市議会第1回定例会でも質問がありましたが、栃木県足利市で登山者等に対しての条例を作ったという話を聞いて、今勉強している最中です。

本市も登山者等に対して、しっかりルールを守ってもらい、少しでも抑止力になるようなことを考えているところで、看板作製なども検討しています。

ジェットシューターは頑丈な造りではないため、一回の出動で多くが破損してしまいますので、今後に備え追加配備するため、今回必要経費を補正しました。

■記者

最近の食料品を含めた物価高騰に対する対応ということで、一部では生活困窮家庭で小・中学校にお子さんがいる、特に給食がない時期に対する対応を求める声が山教組からも出ていますが、県は何か対応するような方向で今動いています。

市として独自に動くようなことは何かありますか。

■市長

私が市長に就任した9年前からフードバンクと提携し、生活が厳しい御家庭200世帯に対して、今は年5回支援しており、そのうち市単独事業で2回支援しています。

こども食堂も良いのですが、本当に生活が厳しい子供たちが来ていないのが現状です。

■記者

この前フードバンク山梨の会見があり、受給希望者が倍増していると話していましたが、笛吹市では対応はとれているのでしょうか。

■市長

倍増しているという話は伺っておりませんが、対応はとれています。

今お話ししましたが、こども食堂が本当に良いのかどうなのか。

NPOで運営しているところはありますが、市がこども食堂に支援することは、今は考えていません。

市としては、フードバンクという形の方が広く皆さんに支援が届くと思っていますので、そ

ちらに力を入れています。

■記者

芦川のグリーンロッジですが、キャンプ場にするとか検討されていたと思いますが、今どのような感じになっていますか。

■市長

基本的に 7、8 月の夏休みにお客様が集中していますので、通年とは言いませんが、春先にもお客様を呼べるよう、指定管理者に頑張ってもらっています。
また、少し施設の規模を縮小して、風呂やシャワー室の設備等を改修する予定です。

■政策課長

芦川グリーンロッジは旧館と新館と二つの建物があり、旧館は非常に古い建物で、耐震基準を満たしていないということもあり、今回解体をすることで進んでいます。新館についても老朽化が進んでいますので、必要な改修等を行ったり、水回り等を綺麗にする中で、利用者の利便性を向上したり、使いやすくするよう、今設計を進めています。

■市長

キャンプでテントが設置できるようなスペースも出来上がります。ただ単にキャンプで泊まって帰るのではなく、鮎の掴み取りや釣りなども体験できるようなことを考えています。

■記者

入口から向かって右側の旧館を取り壊すということですか。

■市長

そのとおりです。

■記者

出来上がるまでのスケジュールを教えてください。

■政策課長

令和 7 年度に改修のための実施設計を行い、令和 8 年度に改修工事を行うスケジュールで進めています。

以上